

特集 地域支援

「チョイソコあきる野」

～創業時からの起業家精神とモビリティカンパニーとしての誇りをもって地域貢献活動を推進～

トヨタS&D西東京 株式会社
S&D多摩ホールディングス 株式会社

世のため人のための起業家精神を

トヨタS&D西東京株式会社（田村勝彦代表取締役社長）などを傘下に置くS&D多摩ホールディングス株式会社（同社長）（以下、同グループ）は2022年1月、東京都あきる野市、横川観光（株）との3者によるデマンド型乗り合い送迎サービス、「チョイソコあきる野」の実証実験に関する事業協定を締結。同年3月から事業をスタートさせた。

同グループの祖業会社である株式会社交運社は、建設機械から大型・小型車輛全般まで幅広い車輛の車検整備、板金・塗装、車体改装などを手掛ける自動車総合整備事業会社であり1922（大正11）年に設立。翌23年に発生した関東大震災を乗り越え、以来100余年にわたる事業を営んできた。創業時からの「世のため人のため」という起業家精神を受け継いだ同グループは、社是「誠実努力」のもと様々な地域課題に向き合いながら地域貢献活動に取り組んでいる。

道が街をつくり、人が道をつなぐ

田村社長は同グループの歴史を振り返り、

り、現在のデマンド交通支援について次のように話す。「当グループは、1922年、私の曾祖父がシボレーとT型フォードを用いて創業しました。翌年には関東大震災が発生し、トラックで救援物資を運ぶなどの支援を行いました。その後創業から3年ほど経ったところ福生から日の出までのバス事業を開始。『道が街をつくり、人が道をつなぐ』という考えのもと、トランスポートেশョンの重要性を認識していたのです。このように、祖業会社の交運社という名のとおり、現在でも私たちは『運ぶ』ということに対し



田村 勝彦 社長

て、とてもこだわりがあるのです」。

そして、「ディーラー業を営む以前から、モビリティカンパニーであり、そのような面では、今こうしてデマンド交通支援に取り組むことは全く不自然なことではないのです。むしろ私は、歴史はつながつているということを改めて実感しております」と述べる。

特に、「多摩地域のNo.1コンシヤスカンパニー」の実現を目指し、地域に貢献する人財の輩出に力を入れている。「顧客価値創造カンパニー」、「ヒューマンウェアカンパニー」、「超優良ローカルカンパニー」という3つのブランド戦略を立てて日々活動している。

そうした活動の一つがデマンド交通の支援事業である。目的は、交通不便地域における新しい移動モビリティの有用性の検証を通して、地域の皆様の困りごと解消のお手伝いをする。こと。(株)アイシンのチョイソコのビジネスモデルを利用した持続可能な公共交通を提案し、自治体で既に持っているバス事業等をよりきめの細かいサービスに補完しつつ、高齢者のみならず地域住民の外出機会を創出し地域経済の振興に貢献することである。

現在、あきる野市、瑞穂町、東村山市の3つの自治体でデマンド交通支援の取り組みを実施している。

「チョイソコあきる野」は3年間の実証実験を経て25年4月から本格運行開始

あきる野市で実施する「チョイソコあきる野」は、トヨタモビリティ基金によ



市内を走る「チョイソコあきる野」号

る資金助成により、2022年3月から開始し3年間の実証実験を経て、2025年4月から本格運行を開始。この事業は、事業主体のあきる野市から事業委託を受けた同グループが様々な支援を行い、運行事業体である横川観光(株)は、運行のほか車両や人員の手配を行う。また、NPO法人「にしたま」は、事業協賛者の開拓・停留所の設置、会員へのPRなど事業協賛支援を担っている。システムやコールセンターなどの支援は(株)アイシンが担っている。

運行日は平日8時から18時で土日祝日および年末年始は運休。予約時間は7時30分から17時30分までで、利用開始時間の30分前までに電話、インターネットで予約することができる。利用対象は限定された運行区域に居住している人のみとなっている。運行は、運行区域内の住宅地停留所と主に市内の公共施設、病院、事業者間の往復となる。運賃は1回300円である。

このサービスの登録会員は累計600人で、実際に利用された会員は307人。全体の構成としては、65歳以上の方が7割を占め、さらに全体の7割が女性とな



あきる野市役所(左)と市役所停留所の案内看板(右)

っており、高齢女性の利用割合が高い地域となっている。運行状況の一例として、9月は20日間の運行日数があり、予約件数は488件、一日当たりでは24・4件、利用者数は98人となった。予約状況は、週末に近づくにつれて予約件数が増え、利用者の主な目的地は日の出にあるイオンモールが多く、主要駅の秋川駅、大きな医療施設である阿伎留（あきる）医療センターなどに行かれる方が多い。

実証実験開始からある程度時間も経過し安定した稼働となっているが、利用者からも「運行を継続してもらいたい」「いい」といった声が続いている。また、チョイソコの特徴の一つに、地域密着型コミュニケーションがあり、会員には「チョイソコあきる野通信」を発行し、運行に関する更新情報をお伝えするとともに、「お出かけしたくなる」様々な情報を発信している。

「チョイソコみずほまち」は東西で分けた運行日の区分を撤廃し利用者増に

瑞穂町で事業を展開する「チョイソコみずほまち」は、2024年10月1日から実証実験の運行を開始。運行日は月、



「チョイソコみずほ」号

火、水、金、土で、木曜日は病院が休みのところが多いため走らせていない。運行にあたっては、町内を東西に分けて運行日を区分けしている。東側に居住する登録者の場合は、火、金、土曜の運行、西側は月、水、土曜の運行となっている。運行時間は9時から17時で、対象者は70歳以上の町内全域の方や障害者手帳をお持ちの方、妊産婦の方ということで、約

8000人が対象。町内118か所と、瑞穂町外の公立福生病院への移動も可能である。運賃は町内移動が400円、公立福生病院が600円である。運行車両は同グループが無償貸与している。

なお、利用者からのアンケート結果を踏まえ、東西の運行区分を7月から一時的に撤廃した。その効果として、登録者と利用者の数が伸びており、9月の予約件数は185件、一日当たり9・25件、利用者数が54人、経験者の累計が108人、会員登録者の累計が310人となった。課題は登録者数の割に利用経験者数が少ないため、今後、町は認知度の強化に努める方針である。

東村山市では次年度から再度実証を検討

東村山市における「予約型乗合交通システム」は、24年5月に実証実験の公募の案内があり、(株)アイシンから共同参入の打診があり、後審査を経て採用決定され、25年1月20日から運行を開始した(6月末で一旦終了)。運行日は平日の9時から17時、料金は1回500円で、運行事業者は東京交通(株)と三幸交通(株)のタクシー会社2社。運行形態で他の自治体と

違うのはセミデマンド方式であり、「交通不便地域と指定された地域」と「市内3つの駅」間を0分発、30分発と、その時間に限定して予約があった場合のみ運行した。対象者は市内全域の方で、停留所は交通不便地域の指定された場所に設置された。

予約がインターネット主体であったことや、タクシー会社の営業に配慮した時間的制約などにより利用が伸び悩み、東村山市が当初設定していた利用基準に実証実験中には未達の状況となった。市としては、次年度から再度実験を再開する意向があり、改めて、運行ルールや停留所の再編などについて公共交通会議で検討、承認をもらう予定とのこと。

キャリアプログラムを活用した人材派遣

同グループでは、地域における人材活用の貢献の一つとして、「ヒューマンウェアカンパニー」を掲げており、その一環として、チャレンジキャリアプログラムという出向制度がある。この制度は、60歳以上の社員が65歳以降のキャリア形成を見ずえた異業種への出向制度だ。完全な出向ではなく同グループに在籍

しながら、副業を通じて次のキャリア形成に挑戦することを支援する、パラレルキャリアコースもある。こうした制度を活用して、現在、横川観光(株)を含めて、3社のバス会社やタクシー会社に出向しているという。まさに「他の地域に貢献する人材を輩出する」というヒューマンウェアカンパニーを体現している。

単に交通難民の救済といった困りごとの解消に止まらず、その交通の維持のための人材を輩出することにも貢献しているのだ。



あきる野市における脆弱な基幹交通において住民の移動手段確保が課題に

あきる野市における「チョイソコあきる野」の運営は登録者数、利用者数とも増加傾向にあり、極めて順調だという。その理由の一つが、あきる野市という自治体の熱量が強いからだ。市長自身が交通対策に熱心であり、施政方針の主要な施策として位置付けているほどで、市が一体となって協力体制が取られている。そこで、事業主体となり、S&D多摩

ホールディングス(株)と連携するあきる野市の担当者に、あきる野市の公共交通の課題とデマンド交通導入、そして本格運行に至るまでの経緯を伺った。

市が公共交通に本格的に力を入れ始めたのは平成27年頃からのこと。市全域は東西に長く、JR五日市線は単線で1時間に最大3本程度の運行と基幹交通が非常に脆弱である。また、路線バスも中心部をあまり走っておらず、コミュニティバスが補完している。そうした中、高齢化や人口減少が進み、免許返納者の増加により、住民の移動手段の確保が課題となり、公共交通について検討を開始した。そこで市は、基礎調査を行い交通の弱さが明確になるとともに、市内6地域で市民の意識調査やワークショップを実施。並行して「公共交通に関するあり方検討会議」を設置し、様々な課題の検討を始めた。検討の後、公共交通の空白地域を特定し、西部山間部でのタクシー利用助成や東部勾配地域での小型バス運行など、順次実証実験を行った。しかし、タクシー助成や定時定路線バスは自家用車の利便性には勝てず、利用が伸び悩んでいた。そうした中で、S&D多摩ホールデイ

ングス(株)からトヨタモビリティ基金を活用したデマンド交通の提案があり、初年度費用を基金で抑えることができるという好条件から、実証実験に着手した。3年間という長期間の実証実験を経て地域にも定着し、登録率が90%を超える地域も現れたため、デマンド交通は有用と判断された。利用者からも「移動が楽になった」などの声があり、特に通院や買い物が必要な目的の高齢者にとってとても有効な手段と位置付けられた。

利用者の実態を見ると、65歳以上が7割を超えており、運転ができない、または困難な高齢者が中心になることは想像していたものの、ここまで顕著な結果が出るとは想定外だったという。地域公共交通協議会において実証実験の目的であった「生活の足の確保」と「生活の質の向上」が達成されたとの承認が得られ、本格運行へ移行した。

デマンド交通が新たなコミュニティの形成の場

デマンド交通サービスの周知については、口コミによる効果を実感している。特に実証実験中は過度なPRを避け、市

の広報や会員向けの「チョイソコあきる野通信」(左頁参照)による情報提供を基本とし、自治会等での説明会を通じて口コミでの広がりが見受けられた。

本格運行にあたっては、利用者からの要望を踏まえ、運行時間を3時間拡大した。特に医療機関やコンビニエンスストアなどの停留所を積極的に追加した。

自動車保有率が高いあきる野市において、自動車保険料や車検費用などの維持費を具体的に示すことで、利用の都度3000円のデマンド交通の経済性をアピールすることが効果的だと感じている。自家用車を所有していても、運転の負担軽減やガソリン価格高騰を背景に近場の移動に利用する高齢者もいるという。

実際の利用者層については、当初想定していた高齢者に加え、最近では子育て世代の親子連れや妊婦の方が通院の足として利用するケースが増加している。運転中に子供が泣く心配がないなど、特有のニーズにも応えられているのではないかとのこと。

また、利用者同士が車内で会話するなど、デマンド交通が新たなコミュニティ形成の場となっている。これは単なる移

チョイソコあきる野通信 第10号
令和7年4月発行

「豊かな自然と人々の絆に包まれ、人やまち、文化を育む 安全・安心なまち あきる野」の実現に向けて『チョイソコあきる野』本格運行中！！

あきる野市役所からのお知らせ

「チョイソコあきる野」本格運行が始まりました！

- ◆ デマンド型交通「チョイソコあきる野」は、令和7年4月から、本格運行を開始しました。
- ◆ 本格運行に当たっては、これまでと変わらず、あきる野市、S&D多摩ホールディングスグループ、横川観光株式会社の3者の連携により実施してまいります。



チョイソコ停留所に関するお知らせ

① 停留所の追加について

- ◆ 地域や利用者の皆さまからいただいた希望の声を基に、各運行区域の範囲内で、**新しい停留所を追加**しました。
- ◆ **新しい停留所マップ**を本通信に同封していますので、ご確認ください。
- ※ 新しい停留所の追加に伴い、登録されている「ご自宅最寄りの停留所」の変更をご希望される方は、市役所までご連絡ください。
- ※ ご希望をいただいた場所であっても、地権者や関係者との協議の結果等により、停留所を設置できない場所や、今後、設置予定の場所がございます。ご理解くださいますようお願いいたします。

② 停留所の区分と移動のルール

住宅地停留所

主に公共交通優先検討区域内の住宅地

町内会館、町内会掲示板、個人宅など

目的地停留所

区域内の買い物施設や医療機関など

買い物施設、医療機関、公共施設、駅・バス停、金融機関・郵便局など

移動のルールはこれまでどおり、変更はありません。

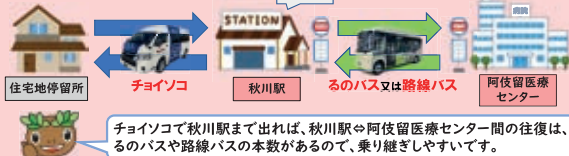
◆ 各地域のマップで指定された、**住宅地停留所⇄目的地停留所**の移動ができます。
住宅地停留所⇄住宅地停留所、目的地停留所⇄目的地停留所の移動はできません。

【お問合せ】あきる野市役所 都市整備部 交通政策課 (042-558-1111 (内線2741))

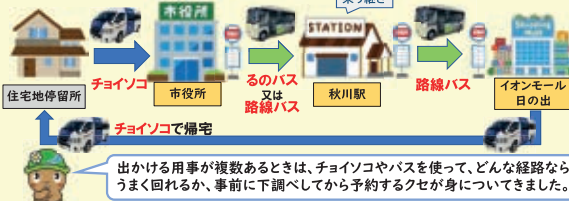
*「チョイソコあきる野」乗り継ぎ活用例のご紹介 *

チョイソコを利用したお出かけ方法は、チョイソコ停留所間の往復だけではなくありません。**公共交通機関の乗り継ぎ**を利用すれば、お出かけ先の幅がさらに広がります！今回は、チョイソコあきる野会員様からお寄せいただいた、**乗り継ぎ活用例**を紹介します！

① 野辺・小川地域



② 引田・淵上・上代継・下代継地域



③ 草花地域



<西東京バス>リアルタイム運行状況案内「バスナビ」

- ◆ 「バス位置情報」から停留所名を入力して検索すると、バスがあと何分で到着するか分かります！外出時に、ぜひご利用ください！
- ※ 西東京バス全線(高速バス除く)の、るのバス・はむらん・はちバスが検索できます。(時刻表も検索できます)



【お問合せ】あきる野市役所 都市整備部 交通政策課 (042-558-1111 (内線2741))

「チョイソコあきる野通信」の発行で利用促進のための情報を発信

将来を見据えた課題

動支援に留まらず、住民の健康増進や社会参加のきっかけとなる付随的な効果、いわゆる付加価値を生み出していると言える。

運営上の課題としては、現在は車両1台で4エリアをカバーし、1日の運行回数

が目標の25回を大幅に超えて30回以上に及ぶ日も多く、運行能力は限界に近い状態となっている。そのため2026年度には、新たな実証実験として、車両を1台増車し2台体制で勾配が急な地域や

バス便が少ない地域へエリアを拡大する計画があり、今後は財政負担も考慮する必要がある。今後最大の課題は「行政サービス」安価・無料」という住民の方々の考えを変え、受益者として一定の負担はやむを得ないという住民の意識改革を促進することが重要だという。

なお、市域全体のネットワークを考える上で、既存のバス・タクシー事業者との調整が課題となるが、幸い事業者数が限られており良好な関係を築けている。今後の展望について、まずは「公共交通の土台を固める」段階にあり、基盤が

整った上で福祉や観光との連携を検討する方針。あきる野市は秋川渓谷や温泉、サマーランドなど観光資源が豊富でポテンシャルが高いが、住民の利用を優先するため、観光利用は他の事業者との役割分担を重視する。

また将来的に自動運転技術が登場しても、このデマンド交通が地域のベースとなると見込んでおり、人を介在させる価値も踏まえ、サービスを継続していく考えだ。また、「使われる」だけでなく、現状や課題を住民に「伝えていく」姿勢が重要だと認識している。